

(様式3) 【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	益田市立真砂小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全	総合的な学習 の時間	真砂小のキラリをみんなに伝えようプロジェクト	○ひと：(有)真砂の従業員、岩井社長、 地域ボランティアの方7人、 地元レストランの藤原さん、 ○もの：真砂豆腐、真砂の米、食用花 ○こと：種まき、植え替え、試食会、感謝を送る会
ねらい		○自分や学校、地域にとってのキラリには、どんなキラリがあるのかを改めて考え、また、新たなキラリにつながる活動を進める。	
<p>1 取組の概要</p> <p>《真砂小のキラリについて》</p> <p>真砂小学校の「めざすまさがっ子像」の合言葉は、「もちあじキラリ!!」。</p> <p>(ま) 前向きに考え、自ら決めて、粘り強くやり抜く子(自律)</p> <p>(さ) 最後まで聞きあい、伝えあう子(尊重)</p> <p>(ご) Go! 「?」を追求し「やってみたい」を実現する子(創造)</p> <p>「キラリ」とは、自慢できる事や、自信がある事、尊重できる、やる気に満ちる等</p> <p>以上のことを心がけ真砂小の子どもたちは、日々の学校生活や日常生活を送っている。そして、自分にとってのキラリや学校にとってのキラリ、また、地域にとってのキラリには、どんなキラリがあるのかを改めて考え、また、新たなキラリにつながる活動を進めようということで、【真砂小のキラリをみんなに伝えようプロジェクト】がスタートした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全児童に、キラリの趣旨説明と活動の流れ(発表や展示等)についての共有する場をもつ ・教育長等への発表に向け、全校でキラリみつける伝える活動を行い、プレゼンテーションづくりを行う ・教育長や益田東中学校生徒へキラリを発表 ・(有)真砂岩井社長のキラリの話(なぜ(有)真砂で豆腐を作ることになったのか?など会社の設立や真砂への思いなどについて説明してもらう。まさに真砂のキラリを求めて会社も立ち上がり、自分自身もキラリを求めて頑張っていることについて)を聞く場、また、エディブルフラワーを栽培して真砂を元気にしようという提案を受ける。 ・「キラリ」エディブルフラワープロジェクト 【種まき→花の植え替え作業→試食会→感謝を送る会】 ・「キラリ」真砂の米農家に学ぶ。 【地元の米づくりの現状や課題、育てるための方法を聞く→収穫→試食会→感謝を送る会】 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業や農家の“ひと・もの・こと”に関わることで、キラリに目を向けるようにする。 ・地元企業からの提案や米農家との関わりによって、「やってみたい」という思いをもち、貢献意欲や実践力を培う。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとに会い、対話や体験するといった活動を通して、キラリの発見や課題に主体的に取り組む態度を育む。 ・米づくりのさかんな地域(5・6年社会科)調べたことを報告しよう(4年国語科)など、様々な教科等横断的な学習として関連づけるようにした。 ・「感謝を送る会」で、活動でお世話になった方々を招待して、キラリや感謝、学んだ成果等をアウトプットする。 			

※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・活動を通して、自分や学校、地域真砂のキラリをより意識し、みる視点が広がり、たくさん見つけようとする姿が見られた。
- ・多様な関わりによって、キラリを深める機会となった。また、発表することを通して、自己を見つめ直す機会となり、将来に対して、具体的なイメージをもつことができた。

（学力育成の視点から）

- ・ふるさとへの“ひと・もの・こと”に出会うことで、キラリを発見するとともに、ふるさとに対して、何ができるかを考え、学びに向かう力を高めることにつながった。
- ・学んだことを写真や表でまとめたり、内容を整理したりする力が身についた。また、それらを活用し、伝える力も身についた。

4 課題や今後の展望

- ・自分や学校、地域のキラリを見直す・発見する活動だが、子どもからの「やってみたい」という思いをもって始めたが、自分事として、主体的に取り組めていない面があった。主体的に取り組めるしかけを継続して考えていきたい。
- ・食用花の活用については、継続して地元の企業と連携を図るが、高校生とも連携をし、真砂の新たなキラリを創出する。その際、地元真砂以外の視点を積極的に取り入れたい。



※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。